

岡垣の教育 岡垣東中学校②

創立から10周年ころまで

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

前回で、1981(昭和56)年4月、岡垣東中学校が開校したことにふれた。

「やはぎ」(生徒会新聞)の創刊号が、その年の7月20日に発行された。校長の貝掛郁光氏は「探究」と題して「：学校の中核は、生徒です。学校の良し悪しは、生徒が主体的に活動できているかどうかです。学校での教科学習は大切ですが、それ以上に大切な勉強があります。人として、精一杯生きることです。」

校訓の第一に「探究」を掲げました。これはすべてのことに、積極的に取り組むことです。ギリシャの哲学者だったソクラテスは、人生の指針として「汝自身を知れ」と言いました。自分を見つめ、自分を発見することに力を注げということ。

どんな建物にも、基礎があります。大きな建物ほど、基礎はしっかりしていなければなりません。将来、社会人として成長するための基礎を、中学生とし

ての学習の中で身に付けてほしいです。：(要約)と述べている。

1年次の学校の施設については、開校前の校舎建設に続いて、1学期にプール工事や運動場整備が行われ、完成した。7月末に、校舎落成式が行われた。3学期には、校舎周辺の植樹が行われた。

1年次の学校行事として、修学旅行(4月)、クラスマッチ(陸上競技やバレーボール、バスケットボール)が6月と11月、体育会(9月)、文化祭(まだ体育館ができていなかった)ので、山田小学校の講堂を借用)を10月に行った。この日は、校内弁論大会も行った。鍛錬遠足(11月)では、城山登山をした。

6月に行われたPTA(父母教師会)創立総会で、初代会長として、野田健治氏が選出された。

8月に行われたバドミントンの県大会に出場し、女子が団体優勝した。北九州市で行われた九州大会にも出場した。

「やはぎ」創刊号の中で、1年

の猿渡美子さんがクラスマッチのことで「：6月11日、クラスマッチの陸上競技大会があった。私は、50メートル走に出場した。走る前から、不安で胸がドキドキした。

スタートのピストルがパーン。同時に私は思いっきり、スターティングブロックをかけた。足を上げて！手を思い切り振り！と考えながら走った。50メートルはあつという間だった。テープを切ったときは、爽快な気持ちになった。しかし、決勝ではうまくいかず、4位だった。でも、一生けん命に走ったので、自分にはよくやったと思った。

学級対抗リレーでは、男子が2位、女子は1位になった。みんなの力が一つになったと思った。感動の物語だった。この日のことを忘れず、このような素晴らしいチームワークの1の5でありたいと思った。：(要約)と述べている。

当時、教頭で2代目の校長を務めた大田満氏は『東中10年史』で「：発足当時、校訓の制定、学校教育計画作成など、先生たちにも生き生きとした努力が、今でも思い出される。スピーカーやトイレの鏡がなくなったりして、頭を痛めることもあった。でも、生徒会活動を活発にする

ため、生徒会役員や学級委員等のリーダー研修を、玄海少年自然の家で行ったこともある。

部活動の合宿を夏休みに7日間、学校に宿泊して、実施したこともあった。宿泊や朝食の準備を手伝っていた先生方に感激した。

各教室に「校訓額」を掲示し、体育館には校歌や校訓の額を設置した。また、校長室には東井義雄先生(教育者)の詩を書いたものを掲示した。どれも私に書かせていただいた。

校地の緑化では、町からの補助金を受け、失対事業による樹木の提供も受けて、校門前の桜、運動場斜面に「岡東」とデザインした「さつき」を植え、前提にも植樹をした。校長室横には、太田孝先生から梅を植樹していただいた。：と述べている。



▲クラスマッチ(バレーボール)
出典：第1期卒業アルバム